

8月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

職能組合代表議員選挙実施(7日)

菌浦政務官とブーアイダ外務・協力相付特命大臣との会談(7日)

第62回革命記念日国王演説(20日)

<内政・政局>

1 ISILによる市町村選挙時の攻撃計画

(1)パリ戦争学校ベルナルル・ルーガン歴史学教授は、ISILに関する報告の中で、9月4日の地方議会選挙に向け混乱を引き起こすことを目的として、ISIL関連グループ「遙かなるマグレブにおける唯一性と聖戦」がテロを企てていると分析した。

(2)同グループはイラクで形成されマグレブ出身のヨーロッパ人から構成される。以前はアルカイダとの関連もあったが、その後ISILに忠誠を誓うに至った。同グループはアルジェリア、モーリタニアとの国境からモロッコ国内に徐々に浸透し不安定化を図ろうとしており、リビアで余剰となっている戦闘員の活用を考えているとされる。

(3)同報告はISILがモロッコに焦点を合わせていること理由について、ISILによる不安定化の試みに対してモロッコが例外的な抵抗を示しているためとしている。ISILにとって選挙の実施は最も忌み嫌うべき民主主義の象徴である。

2 職能組合代表議員選挙実施結果

7日、職能組合代表議員選挙が実施され、ハッサド内務大臣が結果を発表した。

(1) 各種職能組合代表議会と定数

ア 農業代表議会(622)

イ 商工業サービス代表議会(872)

ウ 手工芸代表議会(558)

エ 海洋漁業代表議会(127)

(計 2,179 議席)

(2) 各党の獲得議席数・率(全職能代表議会の合計)および2009年選挙からの増減数

- ア 真正と現代党(PAM)(野党) : 408(18.72%)(+16)
- イ イスティクラル党(PI)(野党) : 351(16.11%)(-28)
- ウ 独立国民連合(RNI)(与党) : 326(14.96%)(-5)
- エ 人民運動党(MP)(与党) : 202(9.27%)(+42)
- オ 公正と発展党(PJD)(与党) : 196(8.99%)(+115)
- カ 人民勢力社会主義同盟(USFP)(野党) : 163(7.48%)(-74)
- キ 立憲同盟(UC)(野党) : 110(5.05%)(+4)
- ク 進歩・社会主義党(PPS)(与党) : 108(4.96%)(+49)
- ケ その他政党計 : 315(14.45%)
- コ 無所属 : 258(11.84%)(+42)

(3) 投票率: 43%(前回2009年選挙時は40%)

(4) 各職能代表議会は、以下のとおり割り当てられた参議院議員(計20議席)をそれぞれ互選する(10月2日投票)。

農業代表: 7、商工業サービス代表: 6、手工芸代表: 5、海洋漁業代表: 2

3 第62回革命記念日国王演説

20日、モハメッド6世国王は第62回革命記念日に際して国民向け演説を行った。

(1) 9月4日実施の地方議会選挙を前に、地方分権改革の意義を強調し、地方政治の役割を想起。同時に、私利のために働き選挙民の利益を代表しない一部の地方議員を批判した。

(2) 国民の投票は権利であると同時に義務であると述べた上で、地方自治の責任は地方議員だけでなくそれを選ぶ有権者の側にもあるとして、投票参加・責任ある投票を呼びかけた。

(3) 不安定な地域情勢に触れ、国内治安維持の観点からシリアとリビアからのモロッコ入国者に対して入国査証取得を義務付けたことに言及。アラブ諸国民との連帯とテロ対策とのバランスをとる苦勞をにじませた。

(4) 国内にいる難民の取扱いの文脈でイスラム法マーリキ派法学の遵守を呼びかけた。同時に、難民であれ国内治安情勢悪化に加担することは許さないという態度を明確にした。

4 ISIL 戦闘員リクルート組織の解体

(1) 26日付け報道によると、中央司法捜査局(BCIJ)はスペイン治安機関との連携により、ナドール、ドゥリウッシュ、アル・ホセイマ、フェズ、カサブランカ、メリリヤにおいて13名のテロリストを逮捕した。容疑者はISILへのモロッコ人戦闘員の募集と移送に関与し、うち一名は反テロリスト法で逮捕・収監された経歴を持つ。

(2) シリア・イラクに関連したテロ組織の解体が続いていることは、ISILがモロッコをはじめとする諸外国に狙いを定めていることを示している。戦闘員募集の目的は、モロッコ等でISILが予め策定した破壊計画に沿った大規模な作戦を実行することにある。

< 外交・国際関係 >

5 藺浦政務官とブーアイダ外務・協力相付特命大臣との会談

外務・協力省は7日付け声明により、藺浦政務官とブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談について発表した。

(1) 7日、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣は、ラバトにおいて、藺浦外務大臣政務官と会談した。ブーアイダ特命大臣は日・モロッコ関係が広く深いものであり、皇室・王室関係によって一層重要なものとなっていると強調した。ブーアイダ特命大臣はモロッコの社会経済開発プロジェクトに対して日本が様々な形態の支援を行っていることを歓迎した。

(2) 同特命大臣は、モロッコは日本企業にとって欧州およびアフリカに進出するためのプラットフォームになることが可能であると強調しつつ、モロッコは日本からより多くの投資を受け入れる用意があるとし、JETRO ラバト事務所が必要とする全ての助力をすると強調した。

(3) 同特命大臣は日本・モロッコ・アフリカ諸国による三角協力の重要性を強調し、アフリカ大陸へのアプローチに関してモロッコが確立した専門知識とモデルを日本のために役立てる用意があると述べた。また、同特命大臣は、日本が TICAD を通じて継続している対アフリカ支援への努力を正当に評価していると述べた。

(4) 藺浦政務官は、JETRO 事務所開設によってさらに増加することが見込まれる進出日系企業に対して、また、投資促進・保護に関する協定の締結が見込まれることについて、モロッコによる支援に謝意を述べた。

(5) 藺浦政務官は日本が「緑のモロッコ計画」に対して160億円(1億3千万ドル)の借款を供与することを伝達した。

< モロッコ要人の外国訪問 >

日付	国	氏名・肩書き	目的
8月24日	パレスティナ自治区	トゥフィック永代財産・イスラム宗教大臣	ハッサン2世農学・環境学部再建落成式

< 外国要人のモロッコ訪問 >

日付	国	名・肩書き等	目的
8月17日	トルコ	イルディリム経済副大臣	ブーサイド経済・財政大臣、ラバハ設備・運輸大臣と会談
8月2日～	サウジアラビア	サルマン国王	私的滞在
8月17-19日	コートジボワール	トゥーレ運輸大臣	ラバハ設備・運輸・ロジスティック大臣と会談

(了)